

日本 武尊山(標高2158.3m)

川場村のむらづくり

4つのキーワード

I 農業プラス観光(政策)

II 都市交流事業(世田谷区)

III 道の駅川場田園プラザ事業

IV 木材コンビナート事業

+

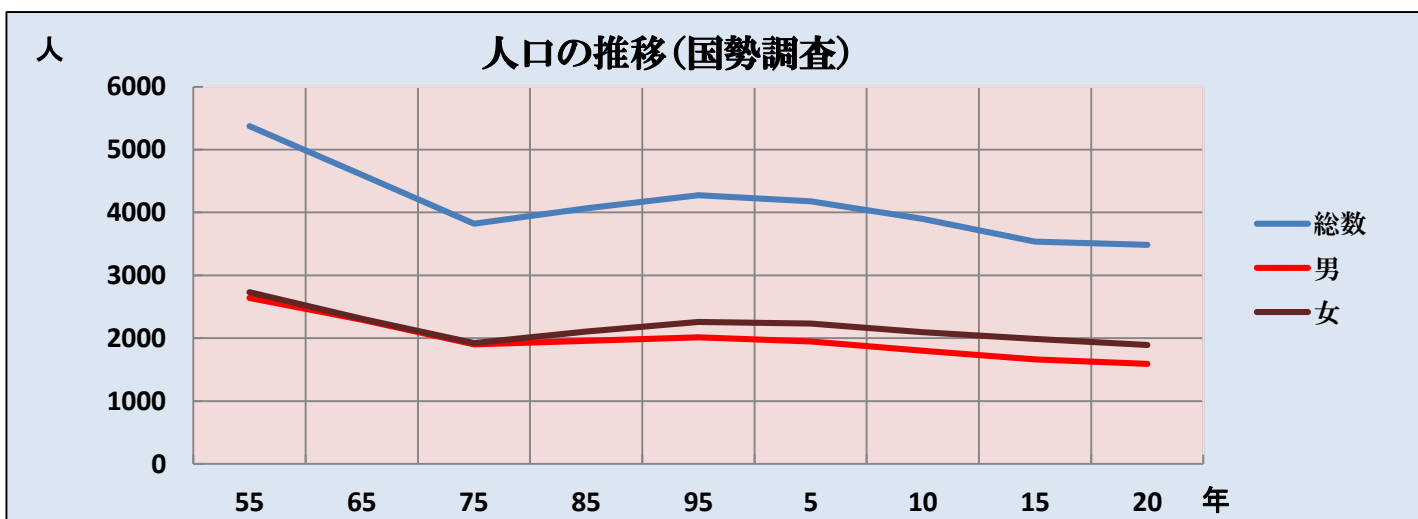
V 新拠点構想

田園理想郷®
(商標登録)

群馬県 川場村

□ 川場村の地勢

- **位置** 群馬県の北部地域に位置し、日本百名山のひとつ武尊山の南麓に位置する。
- **面積** 総面積85.25km²
その内、森林が83%（うち国有林55%）、
耕地が7%を占める自然豊かな農山村である。
- **人口** 3,485人（令和2国勢調査速報値）



○ **河川** 武尊山を源とする4本の一級河川
武尊山の伏流水が湧水となり村に恵みをもたらす。

○ **交通** 上越新幹線 上毛高原駅から車で40分
JR上越線沼田駅から車で25分
関越自動車道沼田ICから車で10分

○ **産業** 基幹産業は、農業。

米

- ・川場産コシヒカリをブランド化（雪ほたか）
- ・国際的コンクールにて12回の金賞を受賞

こんにゃく(芋)

- ・全国生産の9割以上を群馬県内で生産

りんご

- ・ふじ、ぐんま名月、スリムレッド、陽光etc.

他ブルーベリー、トマト、なす、野菜多品種。

I 農業プラス観光

それまでの基幹産業である農業に観光を加えた村づくり

〔背景〕

- S40～50年代の人口減少
- 村存亡の危機感

〔取組〕

- 1977年(S52) ホテルSL事業
- 1980年代以降 スポーツ施設整備
テニスコート、キャンプ場、スポーツ広場
- 1989年(H元) 川場スキー場
- 2012年(H24) 天然芝サッカー場



「ホテル田園プラザ(旧ホテルSL)」



「川場スキー場」

Ⅱ 都市交流事業

1. 区民健康村づくり計画

1979年(S54)世田谷区基本計画の重点プロジェクトに位置づけ
区民の「第二のふるさと」づくり

2. 候補地選定

1980年(S55) 52市町村の中から川場村が選ばれる

選定理由「**川場村には何も無いから**」

(観光地も繁華街もない = 豊かな自然と田園景観が残る)

3. 協定調印

1981年(S56)「区民健康村相互協力協定」

(**縁組協定** = 結婚 > 姉妹提携の関係)

4. 交流拠点施設(区民健康村)世田谷区整備事業

- ① 1986年(S61) 2ヶ所の区民健康村施設を整備
「ふじやまビレジ」・「なかのビレジ」
- ② 1986年(S61)「株世田谷川場ふるさと公社」設立
施設の運営維持管理を行う第三セクター
交流事業のプログラミング・コーディネートを担う

5. 移動教室

世田谷区立全小学校5年生(約6千人)参加
2泊3日で農作業・登山・村巡りを体験
村民は指導者として関わる



移動教室 (農作業体験)



ふじやまビレジ



なかのビレジ

6. 交流事業

① 1992年(H4)「友好の森事業に関する相互協力協定」

縁組協定10周年記念事業

川場村の森林環境を区民・村民が協働して守り、育てる

② 里山自然学校

・里山塾(森林(やま)づくり塾)

・農業塾

・こども里山自然学校 etc.

③ 物産販売

世田谷区内の祭り、イベント等で川場村物産を販売



里山塾(養成教室)



こども里山自然学校

Ⅲ 田園プラザ事業

1. 目的と多機能性

- 村の情報発信拠点機能
- 村民相互、来村者との交流・情報交換の場
- 農産物の消費拡大
- 地場産品の開発、PR、消費拡大と流通促進
- 就業の機会の拡大
- 来訪者の購買ニーズへの対応と飲食の提供
- 村内消費の拡大
- 災害時避難施設機能



道の駅田園プラザ川場全景

2. 事業規模

当初整備期間 平成4年度～平成10年度

敷地面積 60,000m²

事業費用 31億4千万円

グランドオープン 平成10年

(以後、機能向上とニーズに対応するため、増設・リニューアル(進化)を継続している)

3. 運営状況

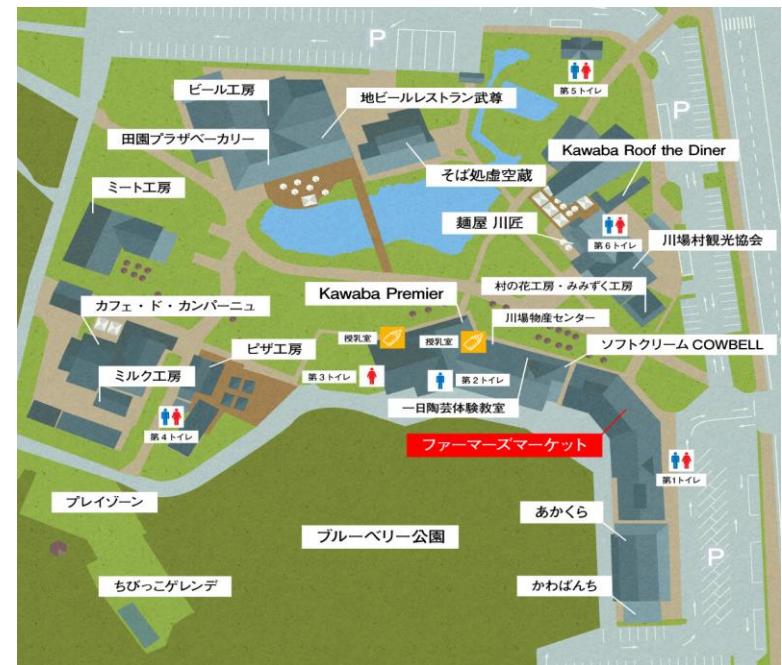
①第三セクター「㈱田園プラザ川場」(指定管理)

- ・従業員数 社員56名 パート51名
- ・年間売上高 16億円(R1)
- ・来場者数 198万人(R1)

4. 田園プラザ内施設

- ・ミルク工房
- ・ファーマーズマーケット
- ・プラザセンター、事務所、研修室 他
- ・ミート工房
- ・そば処「虚空蔵」
- ・ビール工房、レストラン、パン工房
- ・ピザ工房
- ・カフェドカンパーニュ
- ・カワバプレミア
- ・カワバブルーフ(大型避難施設)
- ・緊急避難ヘリポート
- ・フレッシュチーズ工房

田園プラザ川場MAP



IV 木材コンビナート事業

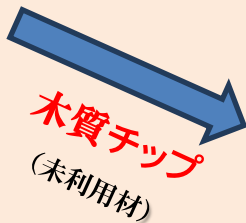
川場村の重要な地域資源である森林を最大限に活用する取り組み
従来の「農業プラス観光」に「林業」を加え、林業の活性化と環境に配慮した村づくり

第三セクター (株)ウッドビレジ川場



製材施設

H28. 4月 稼働開始



木質バイオマス発電



〔木質ガス化装置・熱電併給装置・チップ乾燥機〕

H29. 4月 稼働開始

- ・発電量 45kwh
- ・熱出力 105kwh



農業ハウス

(イチゴ栽培)



H28. 11月栽培開始

(作付面積)

H28 1,000m²

H29~ 2,000m²

※今後の展開：他品種の野菜、果樹の栽培或いは足湯施設の整備等を検討。

廃熱利用

売電

H29. 4月 売電開始

事業参加

・寄付、投資etc.



【世田谷区・川場村の連携】

「川場村における自然エネルギー活用による発電事業に関する連携・協力協定」(平成28年2月15日)

- ・自然エネルギーを媒体とした地域間交流のモデルケース。
- ・川場村の電気を世田谷区民が購入したり、事業に参加したりするための仕組みづくり。

ふじやまビレジ 木質バイオマスボイラー

令和元年度に導入、翌年度より本格稼働

- ・床面積 63.28㎡
- ・ボイラー ドイツ ノルディング社製
- ・規模 最大出力135kW、貯湯槽5t

地球規模で問題となっている温暖化防止策として、エネルギーの地産地消。持続可能な循環型地域社会の形成に向けて推進している。

(株)ウッドビレジ川場の木質チップを燃料として、ホテル田園プラザでも、木質バイオマスボイラーが稼働している。



学校机の天板



学校林の間伐材で、
学校机の天板を製作

H28年度年度事業開始
(小中全生徒270名)
翌年度からは入学式に
配付し、卒業時には、
思い出の記念品に。

「学校林」

川場村には100年以上の歴史を持つ学校林
(村有林)がある。

子どもたちの教育環境の充実に役立てる資産と
するため、先人たちが
つくったもの。

毎年、春と秋に
小学生と中学生が、
下草刈りや防火線
の手入れなどの
作業を行っている。



V 拠点構想推進事業

平成28年度 “新しいむらの風景を創る”ために 「川場村新拠点構想マスタープラン」を策定

田園文化の流れを次世代に引き継ぎ、地域独自の新産業の創造や地域そのものに特化した地域経済活性化を目指す新たな村づくりの構想であり、老朽化した役場庁舎の建替や小中学校の移転統合などを含めた、村中心エリアの再編成を軸に、村内外の施設や組織との連携も視野に入れた今後100年に向けた新たなビジョンを示したもの

村が実現したい：3つのキーワード

川場らしい「むら」の風景

- ・豊かな自然環境
- ・貴重な農村風景

柔軟で可変性のある計画

- ・点在する複数の施設
- ・将来的な機能変換や用途変更

地域経済活性化の聖地

- ・地域に根付いた経済活動
- ・社会の期待と関心の反映

令和2年度より、土地改良事業と同時に
拠点整備事業を開始した。
(拠点整備用地：敷地面積は2.3ha)

土地取得及び造成工事を行い、
今年度、庁舎の建設事業を開始している。
(庁舎は配置図の右上)

